

奥島山緑と水の森林基金の森について

平成15年3月に滋賀・京都・大阪の3府県を中心に開催された「第3回世界水フォーラム」では、170の国や地域と43の国際機関の代表者が集まり、**良質の水を生み出すためには健全な森林を育成することが大切である**との関係宣言が採択されました。

この世界水フォーラム開催を記念し、滋賀県近江八幡市の奥島山国有林に世界各国からフォーラムに参加した代表者や地元近江八幡市緑の少年団を招いて記念植樹が実施されました。

平成16年4月、この記念森林を、水源のかん養や生活環境の保全にとって大切な森林の役割を子供たちや、より多くの人々に知っていただく場として活用するために、社団法人国土緑化推進機構の助成を受け「奥島山緑と水の森林基金の森」に設定しました。



記念植樹に参加した各国の代表



近江八幡市の少年団



第3回世界水フォーラム記念植樹の様子(平成15年3月20日)

近江湖南アルプス自然休養林 (奥島地区)

奥島山国有林と伊崎国有林は、国(林野庁)が管理・経営し、森林レクリエーションの場として皆さんに利用していただくため、「近江湖南アルプス自然休養林」に指定されています。

また、この国有林は琵琶湖国定公園にも指定され、森林の緑と湖水が美しい景観を見せています。山頂へと続く稜線からは「沖島」を眼下に収め、湖東平野と近江富士(三上山)を一望にして、遠くは比叡・比良・伊吹の山なみを望むことができます。

さらに、西国31番札所「長命寺」、「休暇村近江八幡」が隣接し、一年を通して多くの方々を訪れています。

奥島山にゆかりの植物「むべ(郁子)」



ムベ
(アケビ科常緑つる性木本)

若枝は3小葉、後に5~7小葉となり7小葉で実がなることから、七・五・三で縁起がよい木とされています。

昔、天智天皇が蒲生野での狩りのあと奥島に立ち寄られた時のこと、長寿で8人の子を持つ老夫婦に出会い、「どうしてそのように健康で長生きできるのか」とたずねられたところ、老夫婦は、この地に産する珍しい果実を食べていることを話しました。

天皇は大変感心し、「宜(むべ)なるかな」とおっしゃったので、その後、この果実を「むべ」と呼ぶようになりました。

森林のはたらき

森林は山くずれなどの災害からみんなの生活を守ったり、水をたくわえてきれいにするなどののはたらきがあります。このようなはたらきを森林のもつ公益的機能といいます。

・公益的機能のいろいろ

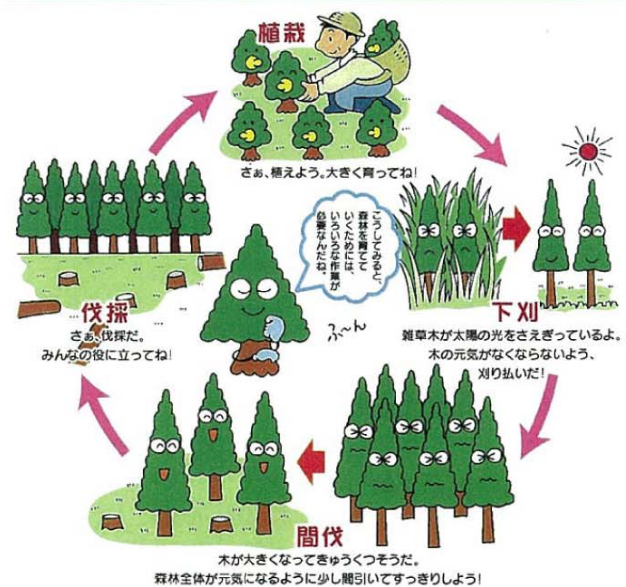


この他にも、生きものすみかになったり、強い風を防いだり、空気をきれいにするなどたくさんのはたらきをもっています。

このような公益的機能と木材やきのこなどをつくるはたらきをあわせて、森林のもつ多面的機能といいます。

林業は、森林を育て、木材などを生産する産業ですが、森林のもつ多面的機能が発揮されることと深い関係があります。

・林業の仕事のサイクル



木を植えることで地面に根が張り、雨が降っても山がくずれにくくなります。間伐をすれば残った木が大きくなりやすくなり、日が差し込むことによって下草などが育ち土が流れにくくなります。

木を植えて、育て、伐採し、また植える。この仕事の繰り返しが大切なのです。

引用資料：農林水産省ジュニア農林水産白書

気をつけよう! フィールドマナーと危険な生きもの

草花や木をおったり、持ち帰ったりしてはいけません。ゴミはかならず持ち帰りましょう。毒ヘビやハチに気をつけましょう。



ようこそ! 緑の奥島山へ 緑と水の 森林基金の森 ガイド



森林基金の森から琵琶湖・沖島を望む

奥島山「緑と水の森林基金の森」づくり協議会

交通のご案内



公共交通機関利用

JR琵琶湖線「近江八幡駅」下車 近江鉄道バス「長命寺」または「休暇村」行き(バス所要時間:約30分)

自家用車利用

名神高速「電王IC」または「八日市IC」から国道8号線を越えて湖岸道路方面へ(ICからの所要時間:約30分)

お問い合わせ先

奥島山国有林に関するお問い合わせ

〒520-2134 滋賀県大津市瀬田3丁目40-18
林野庁 近畿中国森林管理局 滋賀森林管理署
電話(077)544-3871

奥島山の樹木 (木本・葉っぱ編)

針葉樹 (葉っぱが針の様)



ヒノキ (ヒノキ科)

日本の固有種で高さ30mになる常緑高木。材は日本の針葉樹の中で最も価値が高く建築材として重要。樹皮は社寺等の屋根を葺く材料として使用される。



スギ (スギ科)

日本の固有種で高さ50mにもなる常緑高木。建築材として重要な樹種で各地に植林されている。葉は長さ1cm程度の針状。



アカマツ (マツ科)

高さ20m、直径1m以上になる常緑高木。樹皮が赤褐色で葉は2葉性、球果は4~5cmの卵形で翌年の秋熟す。材は建築、造船等に幅広く用いられる。

広葉樹 (葉っぱが広がり)



コナラ (ブナ科)

日本全国の山野に分布し、高さ20m、直径60cm程になる落葉高木。樹皮は縦に不規則な裂け目がある。葉は2cm前後の長楕円形でその年の秋熟す。材は建築や家具、薪炭材等に利用。



アラカシ (ブナ科)

山野に生える常緑高木で、高さ20m、直径60cm程になる。葉の上半分に大形の鋸歯がある。常緑のドングリの木の仲間では個体数が最も多く堅果はその年の秋に熟す。



ウラジロガシ (ブナ科)

山地に生える常緑高木で、高さ20m、直径80cmにもなる。炭黒色でなめらかな樹皮と葉裏の粉白色が特徴。堅果は翌年の秋熟す。



ヤブニッケイ (クスノキ科)

温暖な山地に多い常緑高木で、高さ20m、直径50cmにもなる。花は6月頃で、果実は秋に黒紫色に熟す。樹皮や葉に、ニッケイ(シナモン)の芳香がある。



シロガモ (クスノキ科)

温暖な山地に生える高さ15m程になる常緑高木で、耐寒性も強い。花は秋に咲き、翌年の秋に赤い果実が熟す。

みどりの奥島山

奥島山は、琵琶湖に接した丘陵地で、かつては琵琶湖最大の島(奥津島)でした。

林内には樹齢100年を超えるヒノキや200年以上といわれる大スギがあり、万葉の時代には天智天皇が狩りに、戦国の世では織田信長が鷹狩りに訪れたといわれる、豊かな自然と歴史ある地域です。



長命寺

西国31番札所であるこの寺は、武内宿禰が開山し、聖徳太子にまつわる信仰があります。本尊の千手観音をはじめ多くの国指定重要文化財を伝えています。全国から四季を通じて参拝者があり、808段の石段を登って眺める琵琶湖は絶景です。



伊崎寺(伊崎不動)

役小角を開祖とし、不動尊を本尊とするこの寺には琵琶湖に接する岸壁に幅40cm、厚さ50cm、長さ4mの角材が湖面につかだしています。毎年8月の第一日曜日この竿から琵琶湖に飛び込む「伊崎の竿飛び」という行事が行われています。



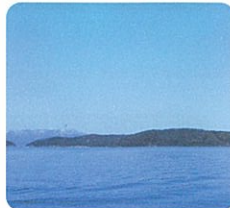
大中の湖干拓

昭和35年頃、干拓が計画され日本一の広さをもつ一大農地が生まれました。米、野菜、果物、牧畜等が行われ京阪神の台所を賄っています。



沖島

宮ヶ浜の沖合約2kmに浮かぶ、面積約1.5km²の琵琶湖最大の島で、約450名の人々が住んでいます。沖島の歴史は古く、保元・平治の乱で敗れた源氏の落人が定住したのが始まりと伝えられています。近年は、レジャーに訪れる観光客も多い魅力ある島です。



奥島山の樹木 (木本・花編)

春の花



アセビ (ツツジ科) 有毒
 3月~4月頃
 日当たりの良い山地に生える常緑低~小高木。有毒植物で和名(馬酔木)は馬が食べると酔ったようになることに由来。



ヒサカキ (ツバキ科)
 3月~4月頃
 山地に生える常緑の低~小高木。雌雄異株で写真は雄花。雌株には秋に紫黒色の果実が実る。



アオキ (ミズキ科)
 4月頃
 林内に生える常緑低木。雌雄異株で写真は雄花。雌株には冬~翌春に赤い果実が実る。



ミヤマシキミ(ミカン科) 有毒
 4月~5月頃
 林内に生える常緑低木。雌雄異株で写真は雄花。香りある白い花や冬に実る赤い果実は美しいが、葉は有毒。



ウスノキ (ツツジ科)
 4月~5月頃
 林内に生える落葉低木。花は鐘形の赤みを帯びた黄緑色。和名は夏に赤く熟す果実の形が白に似ていることに由来。

初夏の花



モチツツジ (ツツジ科)
 5月~6月頃
 低山や道端などに生える半常緑低木。葉の展開と同時に花をつける。和名は新芽や萼などに腺毛が多く「鳥もち」のように粘ることに由来。



ネジ (ツツジ科) 有毒
 5月~6月頃
 山地の尾根や斜面に生える落葉低~小高木。冬芽や枝は花材とされるが有毒植物。和名は幹がねじれることに由来。

夏の花



コアジサイ (ユキノシタ科)
 6月~7月
 明るい林内に生える落葉低木。花には装飾花が無く、青みを帯びることが特徴。

奥島山の樹木 (草本・花編)

春の花



タチツボスミレ (スミレ科)
 4月~5月頃
 人里から山地まで身近に生えるなじみ深いスミレ。花色はふつう淡紫色。



ショウジョウバカマ (ユリ科)
 4月~5月頃
 山地の湿り気のある場所に生える多年草。和名は、花を架空の動物「狸々」の赤い顔に、葉を袴に見立てたものといわれる。



ウラシマソウ (サトイモ科) 有毒
 4月~5月頃
 花のように見えるものは仏炎苞といい、中の花序をカバーしている。花序の先の長いひも状のものは付属体といい、和名は長い付属体を浦島太郎の釣り糸に見立てたもの。



シャガ (アヤメ科)
 4月~5月頃
 林床に生える常緑の多年草。果実はできず根茎をのぼして増えるため群生することが多い。



チゴリ (ユリ科)
 5月頃
 山地の林内に生える多年草。高さ30cm程度になり、茎頂に白色の可憐な花を1,2個つける。和名はこの可憐な花を稚児に見立てたもの。

初夏の花



イワカガミ (イワウメ科)
 5月~6月頃
 山地の岩場や草地に生える常緑の多年草。日当たりが良く適度な湿り気のあるところに群生する。

秋の花



センブリ (リンドウ科)
 9月~11月頃
 日当たりのよい山地や草地に生える2年草。全草に強い苦みがあり健胃薬とされる。和名は千回振り出しても苦みが無くならないくらい苦いことに由来。